

健康コラム

保健 医療 介護 福祉

●飯南病院 電話72・0221 ●来島診療所 電話76・2309 ●保健福祉センター 電話72・1770

卒業まで飯南町で過ごし、岡山県の専門学校を卒業後、出雲市

岩見桃子
(看護師)



看護師の岩見桃子です。高校卒業まで飯南町で過ごし、岡山県の専門学校を卒業後、出雲市

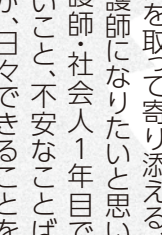
吉村美咲
(医師)



飯南病院 新規採用職員を
紹介します

す。よろしくお願ひします。

岩見桃子
(看護師)



患者さんと積極的にコミュニケーションを取って寄り添える、温かい看護師になりたいと思います。看護師・社会人1年目で分らないこと、不安なことが増やしていますが、日々できることを笑顔・明るく・元気で頑張ります。

穴戸由佳
(看護師)



内々の病院で4年間勤務してました。高校生の頃から将来は飯南町で働きたいと思い経験を積んできたので、飯南病院で働けることをとても嬉しく思っています。

保健福祉センター

年間の医療費が3倍以上 特定健診「受診者」と「未受診者」

将来の「からだ」のためにも「お金」のためにも

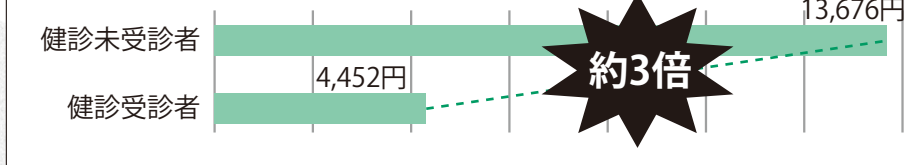
特定健康診査(特定健診)は、40歳から74歳までの人を対象とする、生活習慣病を予防するための健診です。生活習慣病は自覚症状があまりないため、特定健診などでからだのチェックをしていないと、気付いたときにはすでに病気が重症化していることもあります。いざ治療するとすると、体への負担はもちろん、医療費など経済的な負担も増えていきます。

年間の医療費の差を「健診を受ける人」「受けない人」で比較すると、その差は約3倍。(図1)健診未受診

者は、受診者に比べ多くの医療費がかかっています。特定健診の結果は全て数値化されるので、毎年受けることでからだの変化が分かるようになり、「食べ過ぎ」「お酒の飲み過ぎ」「運動不足」「たばこ」など、何のように改善すればいいのか分かってきます。

町では保健師による生活習慣の改善のお手伝いをしています。生活習慣改善のきっかけづくり、病気の早期発見、将来かかる医療費を抑えるためにも、今年こそは特定健診を受けてみませんか？

図1 生活習慣病にかかる1人当たりの医療費



※生活習慣病…偏った食事・運動不足・飲酒・喫煙・ストレスなどが原因で発症する病気。脂質異常症・高血圧・糖尿病・肥満など。これらが重症化することで脳梗塞や心筋梗塞などにつながる。

中山間地域研究センターに併設している図書室は、町民の皆さんをはじめ、どなたでも利用できます。

常設の図書として、農林畜産業や中山間地域関係の少し硬めの内容の本を豊富に取り揃えているほか、絵本や自然科学の本、大人向けの小説など、バラエティーに富んだ図書100冊を県立図書館から借りて、3カ月おきに更新しています。

また、本を借りるだけでなく、学生の皆さんの勉強の場、子どもさんや家族の団らんの場としても利用できます。

初めて本を借りる人は、「利用者カード」を作成しますので、住所が確認できるものを持参してください。皆さんのお越しをお待ちしています。

- 図書室開室日
日曜日～金曜日
(土曜日、祝日、年末年始は閉室)
- 図書室開室時間
9時～17時
- 貸し出し
一人5冊、21日間(3週間)まで
- 図書室の情報は、センターホームページに掲載しています
<http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

こんにちは
中山間地域研究
センターです。



センター図書室にお越しく下さい

●中山間地域研究センター
電話 0854・76・2025
<http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>



新1年生に タスキ寄贈

3/13
水

雲南地区交通安全協会から、反射タスキ80本の寄贈を受けました。同協会では、交通事故のない町づくりに寄与するため、雲南地域の小中学校に反射タスキを寄贈する取り組みを、毎年行っております。タスキは町内各小中学校に贈られ、入学式に新入生に配布されました。



雲南地区交通安全協会の竹下副会長(中左)、飯南町交通安全協会の和田会長(左)と、難波副会長(右)、矢飼教育長(中右)

赤名酒造が町内・酒造会社初の登録

募金百貨店プロジェクト

3/22
金

株式会社赤名酒造が、商品の売り上げの一部が自動的に赤い羽根共同募金への募金となる、寄付つき商品を販売する「募金百貨店プロジェクト」に登録しました。「特別純米酒『飯南米』720ml」1本販売ごとに、飯南町共同募金委員会に寄付され、町内各小中学校の福祉施設での交流活動などに活用されます。三島社長は「これまでも災害の被災地などに募金を行ってきたが、継続した取り組みもできればと考えていた。地域の福祉活動に役立ててほしい」と話していました。



三島崇暁代表取締役社長(中央)、町共同募金委員会 吉岡達雄会長(右)、(福)島根県共同募金会 長谷和典常務理事(左)